



逃げ!!

蜘蛛の糸

GOAL

極楽ももう午に近くなったのでございましょう。



玉のような白い花は好い匂いを辺りに振りまいています

スタートに戻る

しかし極楽の蓮池の蓮は、少しもそんな事には頓着しません

スタートに戻る

自分だけ地獄から出ようとする犍陀多を浅間しく思ったのでしよう

スタートに戻る

悲しそうな顔をして、またぶらぶら歩いていきます

スタートに戻る

御釈迦様は一部始終を見ていました

スタートに戻る

他の罪人も自分の後を追って蜘蛛の糸を辿ってきていることに気が付く

「こら、罪人ども。この蜘蛛の糸は己のものだぞ。お前たちは一体誰に尋いて、のぼって来た。下りろ。下りろ。」

ぷつり

蜘蛛の糸は切れ、犍陀多まさかさまに落ちていく

8マス戻る

後にはただ極楽の蜘蛛の糸が、きらきらと細く光りながら、月も星もない空の中途に、短く垂れているばかりでございませう。

犍陀多疲れる

1回休み

犍陀多は、早速その蜘蛛の糸を両手でしっかりとつかみながら、一生懸命に上へ上へとたぐりのぼり始めました。

「この糸を辿ったら地獄を抜け出し、極楽まで行けるかも」

1マス進む

犍陀多は、遠い遠い天上から銀色の蜘蛛の糸が垂れてくるのを見つける

地獄の特徴：
・真っ暗
・恐しい針の山がある
・墓の中のようにしんと静まり返っている

「いや、いや、これも小さいながら、命のあるものに違いない。その命を無暗にとると云う事は、いくら何でも可哀そうだ。」

御釈迦様はこの男を地獄から救い出してやろうと御考えになりました

1マス進む

翡翠のような色をした蓮の葉の上に、極楽の蜘蛛が一匹、美しい銀色の糸をかけて居ります。

御釈迦様はその蜘蛛の糸を手に取り、地獄の底へ下ろす

犍陀多は大変な悪人ですが、ひとつだけ善い事をしました（蜘蛛を殺さず助けた）

犍陀多と云う男が一人、ほかの罪人と一しょに蠢いている姿が、御眼に止まりました。

地獄の底がはっきりと見える

1回休み

御釈迦様はその池のふちに御佇みになって、水の面を蔽っている蓮の葉の間から、ふと下の容子を御覧になりました。

ある日、御釈迦様は極楽を独りで歩いていました

1マス進む

START

『蜘蛛の糸』は芥川龍之介による短編小説。初出は1918年に発行された雑誌です。

【参照】
青空文庫 <https://www.aozora.gr.jp/index.html>
底本：『芥川龍之介全集2』ちくま文庫、筑摩書房
1986（昭和61）年10月28日第1刷発行
1996（平成8）年7月15日第11刷発行
入力：平山誠、野口英司 校正：もりみつじゅんじ

すごろく作成：宮崎市立佐土原図書館
2020年5月7日 発行

